

## 第34回 優良省エネルギー設備顕彰

# 「アプライ 塩町」など3件、 顕彰式を盛大に挙

冷凍空調設備の第34回優良省エネルギー設備顕彰式が、3月22日、東京・港区の芝パークホテルで業界関係者ら多数が出席して挙

### 3 設備を顕彰、省エネセンター最優秀賞に (株)HR

今回の顕彰設備は新設設備部門1件、改修設備部門2件の合計3設備で、うち(一財)省エネルギーセンター最優秀賞に、(株)HRが施工し、アプライ塩町に導入した『エコミラ・換気省エネインバーター自動コントロールシステム』が、奨励賞に(株)ダイキンアプライドシステムズが施工し、ダイキン工業堺製作所金岡工場に導入した『パッケージエアコン性能試験室における一流体水スプレー加湿による制度維持と省エネ運転』と菱友冷熱(株)が施工し、静岡銀行富士宮支店に導入した『省エネルギー空調機更新工事』をそれぞれ顕彰した。

この度受賞された設備は、川瀬貴晴千葉大学グランドフェローを長とする特別委員会を2月24日に開催、慎重審議のうえ以上の3設備を選出した。

顕彰式は若林究・経済産業省製造産業局産業機械課係長、判治洋一・(一財)省エネルギーセンター上席統括役、川村邦明・(公社)日本冷凍空調学会会長らが来賓として出席した。

定刻の午後3時30分、司会の南雲誠専務理事が開会を宣し、次いで鳥波益男会長が「当会の優良省エネルギー設備顕彰事業は、皆様のご協力により今年で34回目を迎えることができました。」と述べ、「パリ協定やMOP28等の省エネ、地球温暖化対策を巡る国際情勢は大きく変わろうとしている。我が冷凍空調業界におきましても更に積極的に対応することが重要である。と同時に、我が冷凍空調業界は、お客様への設備改善提案による省エネルギー強化が重要であり、中長期的にみれば、お客様への経営改善、経営支援につながるものと考えている。そして、多くの原子力発電所の運転が止まっている今日、より一層の省エネルギーの



式辞を述べる鳥波会長

推進と環境負荷のない新エネルギーの利用促進、さらに確実なフロン回収、排出削減など環境負荷の低減は、設備産業に携わるわが業界に課せられた重要な使命である。本日にここに顕彰を受けられた皆様は、このような環境を十分理解し、困難な条件を克服され、日頃蓄積された技術を駆使され、省エネルギーに尽力されたご功績は多とするものであり、そのご努力に深甚なる敬意を表するものである。」と式辞を述べた。

次いで、川瀬委員長が審査結果の発表を行い、受賞3設備の省エネルギー技術の特徴について講評を行った。

次に顕彰に移り、はじめに(一財)省エネルギーセンター最優秀賞のアプライ塩町に導入した「エコミラ・換気省エネインバーター自動コントロールシステム」の施工者、(株)HRの網島弘幸代表取締役が顕彰状が、設備所有者の(株)アプライの畑雅樹取締役本部長に感謝状が、同センターの判治洋一上席統括役から贈られた。

また、奨励賞の施工者には顕彰状、それぞれ設備を導入していただいた設備所有者には感謝状を鳥波日設連会長より記念品と一緒に贈られた。



川瀬委員長による審査結果発表



代表謝辞を述べる(株)HR網島代表取締役



賞状を手に(株)HR網島代表取締役(左)と(株)アプライ・畑取締役本部長



(公社)日本冷凍空調学会・川村会長

## 「お客様と一緒に知恵を出し合ってきた製品」と受賞者代表謝辞

賞状授与のあと、受賞者を代表して網島弘幸・(株)HR代表取締役から「今回受賞しました『エコミラ』は多くの方々のご協力により製品化されました。前回受賞しました『エコアイ』はインバータエアコンにしか設置できず、設置出来なかった多くのお客様に別な方法で省エネを提案できないか。これが『エコミラ』の開発のきっかけでした。この開発には、ご協力いただきましたHITEXさんやアプライさん、販売代理店、家族や会社のスタッフに、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。このエコミラは、ユーザーのアプライ様と計画・実験・評価を一緒になって行ってきました。未来に対して今自分たちに何が出来るか、それをメーカーとユーザーが一緒になって知恵を出し合い協力してできた製品だと思います。製品名の『エコミラ』には、『エコに未来を』という願いが込められています。この製品名に負けたくないこれからも地球にとってすばらしい未来を造っていく未来メーカーとして社会に貢献してまいります。また、この受賞の趣旨をよく理解し、この榮譽を糧に、今後とも新しい製品開発に全力を尽くす所存です。」と受賞者代表謝辞があった。

## 「着実な省エネが大きな貢献となる」と祝辞

最後に、来賓を代表して川村邦明・(公社)日本冷凍空調学会会長より、始めに受賞された皆様へのお祝いを述べた後、「冷凍空調は、食品の保存、快適空間の創造、なくてはならない必要な技術である。これをいかに省エネルギーで運転していくかが、地球温暖化対策、CO<sub>2</sub>削減における検討課題となっている。また、貢献のできるものと考えている。そういう意味でも省エネルギーは最大に必要な技術だと思っている。アメリカ大統領にトランプ氏が就任してから、パリ協定からの離脱表明や環境対策予算の削減などアメリカの省エネ対策は今後どうなるか心配ですが、逆に日本は、その間に省エネ技術を高めて、どこにも負けない技術を世界に供給していく必要があると考えている。今回の受賞設備は空調が中心ではありますが、着実な省エネルギーを実施していることが評価されたと思う。この着実な省エネが大きな貢献に結びつくもの思っており、すばらしい技術だと思います。」と祝辞があった。

## 「ZEBには、外気負荷を減らすことが重要」と記念講演

引き続き、当顕彰の審査委員長でもある川瀬貴晴・千

葉大学グランドフェローによる「最新の ZEB、PEB の現状～アメリカ冷熱ビジネス視察団報告～」と題する記念講演が行われた。

同講演で、川瀬委員長は、海外事例を交えながら「エネルギー創出には、太陽光の他に、化石燃料に頼らないバイオマス発電や地中熱利用などによるものが多い。また、日本国内で ZEB を実現するには、いかに外気負荷を減らすことが重要となってくる」と説明した。続いて、1月28日から2月3日に掛けてアメリカ視察した内容について、始めに「AHR EXPO 2017」で出展していた製品等を紹介したのち、サンフランシスコで視察した PEB、ZEB の施設について「カリフォルニア州は、ZEB の最先進州である。アメリカでは 2016 年現在で、ZEB が 53 件、ZEB の途中が 279 件、60% 省エネの超省エネが 62 件あり、ここ 1.2 年で急速に増えている。その中でもカリフォルニア州は、154 件とアメリカ全体の 40% 近くを占めている。視察した DPR ビルは、最終退出者は、セキュリティ系以外の待機電力を落とすことになっていることやモニターとリモー

トコントロールできるコンセントタップが各机にあり、個別に計量や ON/OFF、遠隔操作、データはクラウドに上げられるようになって、管理できるようになっている。もう一つのビル、David and Lucile Packard Foundation 本社ビルは、蚊がいないため、窓を開けっ放しにできることや、エネルギーの実績がプラス、マイナス表示されている。また、配管は、通常直角に曲げているが、配管抵抗を減らすために斜めになっており、極力曲がりを減らすようにしている。」と視察した施設について説明し、講演を締めくくった。

## 和やかに記念パーティー

顕彰式に引き続き、別室で記念パーティーが開かれた。同パーティーは、鳥波会長の挨拶の後、技術委員会担当の田尻耕一副会長のユーモアを交えた挨拶と乾杯の音頭で始まり、受賞者、業界関係者、報道関係者など多数の方々が参加し、和やかに歓談、あちこちで情報交換をする姿が見られ、宮本正副会長のウィットに富んだ中締めで盛会裡に終了した。



記念講演中の川瀬委員長



記念パーティー

### 第34回優良省エネルギー設備顕彰受賞者一覧

平成29年2月27日 (一社)日本冷凍空調設備工業連合会

No.	部門	設備施工者	設備所有者〔設備建物名〕	テーマ
1	一般財団法人 省エネルギーセンター 最優秀賞  〔改修設備部門〕	株式会社 HR (大阪市西区)	株式会社 アプリイ 〔アプリイ塩町〕 (静岡県掛川市)	エコミラ・換気省エネインバーター 自動コントロールシステム
2	一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 奨励賞  〔新設設備部門〕	株式会社 ダイキン アプライドシステムズ (大阪市中央区)	ダイキン工業株式会社 堺製作所 金岡工場 〔パッケージエアコン性能 試験室〕 (堺市北区)	パッケージエアコン性能試験室における 一流体水スプレー加湿による精度維持と 省エネ運転
3	一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 奨励賞  〔改修設備部門〕	菱友冷熱株式会社 (静岡県沼津市)	株式会社 静岡銀行 〔富士宮支店〕 (静岡県富士宮市)	省エネルギー空調機更新工事